

大の研究で、老化はステップアップ方式であることがわかりました。毎年少しずつ老化が進むのではなく、歳によって老化が停滞したり、加速したりするそうです。

実は老化が加速する年齢はわかっています。「44歳」と「60歳」。これが二大老化期だそうです。私が老眼になったなあとと思ったのは忘れもしない44歳。本当に突然来た気がしました。そして今年で60歳。これから何が出てくるのか！今年は悪あがきをして歳に抗おうと思いません。

抗生剤の話

あまり社会的には知られていませんが、医療界では大問題が起きてい

ます。ともかくにも薬不足。歯科の問題ではなく大病院から小さなクリニック、歯科医院や薬局まで全てです。特に抗生剤。どこで注文しようとしても、ジェネリックであつても品不足で購入できない現状です。当院ではなんとか新規購入できたのですが、一時期は数人分しか手元にない状況でした。

抗生剤は狙った効果があるので、歯科では「ペニシリン系」以外はあまりニーズがありません（アレルギーがある方へは別系統の薬にします）。ところが、そのペニシリン系抗生剤が不足しているのです。調剤薬局の薬剤師さんに聞いても足りないとおっしゃっていました。不足にはいろいろな理由があるそうです。

それはともかく、個人的にはこの辺で薬剤の使用法を考えたほうがい

いと思っています。多用し過ぎではないかと。また、過去の話ですが、風邪に抗生剤を出していた時代があります。目的外使用もはなはだしい。意味がないだけでなく、抗生剤の必要な服用により耐性ができてしまい、本当に必要なときに効かないということも実際あります。どんな薬も「毒をもって毒を制す」です。必要なタイミングで、必要な量だけ服用したときに最大の効果が出ます。

ちなみに抗生剤はいつからあると思いますか？日本で広く使われるようになったのは1950年代からです。もちろん有効性は間違いありませんが、これほど多用していいものなのかどうかは誰にもわかりません。抗生剤を多量に服用した結果、人類にどのような影響を及ぼすかはまだまだ未知の世界です。